

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況  
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	3		評価者	担当課等	学校教育課			
事業名称	地域の特性を活かした特色ある教育の推進							
項目名称	①学校公開事業							
①事務事業概要	実施根拠法令							
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
	事業費内訳	<input type="checkbox"/> 国庫補助 <input type="checkbox"/> 県単 <input type="checkbox"/> 一般財源 <input type="checkbox"/> その他（    ）						
	対象（～に対して）	市民						
	目的（目指すべき姿）	広く市民に学校を公開することにより、学校教育に対する理解とともに相互の連携協力を深める機会とする。						
	事業内容	「市民に学校を公開する日」の実施						
②事業実績・効果	区分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	事業の実績	1	開催回数	回	2	2	2	2
		2						
		3						
	事業効果	1	来校者数（延べ）	人	1,578	1,538	1,511	1,376
		2						
3								
③事業費	区分		単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	決算額		千円	—	—	—	—	
	年度の歳出（節別内訳）		千円	—	—	—	—	
④事務事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	<p>[必要性]            県が推進している「いわて型コミュニティ・スクール」は、学校が検証可能な目標達成型の学校経営へ脱皮することを目指すものであり、その目標や計画を家庭や地域と共有しながら協働による実践を展開していくための取り組みとして必要である。</p> <p>[有効性]            「市民に学校を公開する日」の取り組みは、学習の様子だけでなく給食時間、清掃、放課後活動などの時間を広く一般に公開することにより、学校教育に対する理解を図るとともに、学校と保護者・地域をつないで相互の連携協力を深める上で有効である。</p> <p>[効率性]            H20年度より第2回（9月）は「市民に学校を公開する週」として、9/9～9/14の間の1日を自由に設定できることとした。</p> <p>[公平性]            2回の公開日ともに「広報にのへ」により広く市民に周知している。</p>						

## II 二戸市教育振基本計画に基づく平成21年度分野別主要事業の取組実績

### 3-地域の特性を活かした特色ある教育の推進

#### ①学校公開事業

#### 【委員の意見・提言】

#### ■ 3-①学校公開事業

- ◆ 内部評価の記載を見ると、必要性から公平性までいずれも、どのように事業を実施したのかを説明した文章で終わっており、その結果についての評価が記載されていないように思われます。効率性の項目に、「公開する週」を平成20年度から導入したという記事が見られますが、何故導入することとしたのか、その理由とか、ねらいの説明が欲しいと思います。そのねらいに照らし合わせて、結果がどうであったかの評価はできないものでしょうか。また、事業効果の欄を見ると、来校者数は右肩下がりの傾向にありますが、この点に関する内部評価のコメントも見当たりません。事務局職員は、評価の仕方、目の付け所（ポイント）について勉強する必要があるのではないのでしょうか。そうしなければ、的確な自己評価をすることがいつまでたっても出来ず、外部評価に頼ることになると思います。数値傾向を前向きに捉え、分析してみる習慣を付けなければ仕事の改善はなしえないと思います。プラン→ドゥ→シーの基本を仕事の中で、いつも意識していることが大切なことだと思います。とは言うものの、この事業について効果測定や目的とかねらいに照らし合わせての評価を、学校現場にいない事務局職員が行うことは、なかなか難しいことかもしれません。この仕事を事務局職員が行うとすれば、評価の準備作業として、各校の校長にアンケート調査をするとか、コメントを記載したペーパーを収集するとか、校長会議の場でコメントしてもらうとかしてやる必要があるかと思われます。
- ◆ 「市民に学校を公開する日」の取り組みは、学区民の学校に対する理解と関心を高める意義ある取り組みであり、地域との連携を深める学社連携の基礎となる重要事業となるので、継続し多くの市民が参観するよう工夫してほしい。18年度から20年度までの3カ年は来校者数は延べ1500人を超えていたが、21年度は1376人と減少している。学校によっては「学校だより」等で学区内住民へ回覧で学校情報を周知し取り組んでいるが、学区民、各地域活動団体等への呼びかけや、公開日を土曜日、日曜日に設定するなど検討しながら、地域に根ざした特色ある学校づくりを願う。
- ◆ 「市民に学校を公開する日」は、地域の学校を地域の市民に公開することによる効果は大きいものである。しかし、来校者数が21年度は少なくなっていることについて再検証する必要があるのではないか。来校者の大部分は児童・生徒の保護者がではないだろうか。自分の子供が授業でどのような学習をしているかを見学し下校している。本来の趣旨は一般の市民が地域の学校の児童・生徒がどのような学習や生活をしているかを見学することによって、地域の学校を育てるためのものであり、地域の市民がより良い学校へと支援することにあるのではないか。〔有効性〕にある「学校・保護者・地域の相互連携を深める」については、必ずしも有効性に当たるとまでは言えない。欠けているところは、地域の学校の職員は地域の間人でもあるはずであるが、交通状況の変化により遠隔通勤している。つまり、公開は公開という意識ではないか。